おかいもの だいすき!

消費者教育啓発教材
「幼児向け絵本・教材CD-R」

絵本『おかいもの だいすき!』と、このCD-Rの活用方法について

この絵本は、幼児（5~6歳児）を対象とする消費者教育啓発教材として制作しました。

「買い物をするということ＝消費」は、お金を払って商品を買うという行為を通して、その商品を売る人、作る人とつながること、すなわち「社会とつながること」です。

この絵本は、その第一歩を踏み出す幼児に、買い物のしかた、商店の仕組み、買い物の楽しさなどを、わかりやすく伝えることを目的としています。

このCD-Rでは、絵本の各ページについて、消費者教育啓発の意図で盛り込んでいる内容を補足説明しておりますので、読み聞かせなどの際にご参照いただければ幸いです。

さらに、プリントアウトして利用できるゲーム素材も収録し、子どもたちがごっこ遊びを通して、お金の使い方などに親しむことができるよう工夫しています。

併せてご活用ください。

幼児期の消費者教育

社会生活を営む人は、全てが「消費者」であるといえます。一人一人の消費行動が社会経済や地球環境に影響を及ぼしうることを自覚し、消費者がその行動によって公正で持続可能な社会の形成に積極的に参画する社会が、「消費者市民社会」です。消費者市民社会の構築に向けて、自立した消費者を育成するための消費者教育は、幼児期から段階的に行われ、生涯にわたって行われることが求められています。

消費者庁では、幼児期から高齢者まで、段階に応じた「消費者教育の体系イメージマップ（http://www.caa.go.jp/kportal/search/pdf/imagemap.pdf）」を制作しています。その中で、自立した消費者の基礎となる幼児期は「様々な気づきの体験を通じて、家族や身の回りの物事に関心をもち、それを取り入れる時期」と位置づけ、下記のような重点領域ごとの教育目標を掲げています。この絵本とCD-Rは、これらの目標を踏まえて制作しております。

＜消費者庁「消費者教育の体系イメージマップ」より、幼児期＞

重点領域		目　標
消費者市民社会の構築	消費者がもつ影響力の理解	おつかいや買い物に関心を持とう
	持続可能な消費の実践	身の回りのものを大切にしよう
	消費者の参画・協働	協力することの大切さを知ろう
商品等の安全	商品安全の理解と危険を回避する能力	暮らしの中の危険や、ものの安全な使い方に気づこう
	トラブル対応能力	困ったことがあったら身近な人に伝えよう
生活の管理と契約	選択し、契約することへの理解と考える態度	約束やきまりを守ろう
	生活を設計・管理する能力	欲しいものがあったときは、よく考え、時には我慢することをおぼえよう
情報とメディア	情報の収集・処理・発信能力	身の回りのさまざまな情報に気づこう
	情報社会のルールや情報モラルの理解	自分や家族を大切にしよう
	消費生活情報に対する批判的思考力	身の回りの情報から「なぜ」「どうして」を考えよう

登場人物

● 主人公：こうた

保育園年長（5歳）の男の子

お母さんと買い物に行くのが大好き。

素直な性格。いろいろなものに対する好奇心が旺盛。

● おかあさん

こうたと年子の妹のみーちゃんの母。

子どもの自主性や思いやりの心を育てようと心がけている。

● おとうさん

サラリーマンなので平日は帰りが遅いこともあるが、日曜日は

家族だんらんを大切にしている優しい父。

● みーちゃん

こうたの妹。保育園の年中（4歳）。元気な女の子。

絵本解説・各ページのポイント

＜表紙・中扉・裏表紙＞

表紙は、買い物に出かける主人公とお母さん。その周りに、これから買うものの絵をイメージ風に配し、買い物に出かけるわくわく感や楽しさを感じてもらえるように意図しています。この表紙は、これから行く店や売り場を描いた中扉、買ったもので出来上がったものを描いた裏表紙と連動しています。

子どもたちに「どんなお店に行くのかな？」とか、「何をつくるのかな？」というような問いかけをしながら、興味を喚起し、本文に導入してあげてください。

＜P2～3＞　スーパーマーケットの入り口

●スーパーマーケット

浜松市で子どもが親と一緒に日常の買い物に行く場としては、スーパーマーケットが最も一般的と考え、買い物の舞台をスーパーマーケットにしました。お母さんと手をつないで入り口の前にいるこうたに、読者の子どもたちが自分を投影して、自分もこれから中に入るような気持ちになってもらいます。

●マイバッグ

本文では触れていませんが、こうたは手にマイバッグを持っています。買い物に行くときは、自分で袋などを持っていこうね、ということをさりげなく伝えています。

＜P4～7＞　スーパーマーケットの売り場全景

●買い物の昂揚感

スーパーの入り口を入って店内を一望したときの風景を、観音開きの4ページを使って表現しました。おもむろに開いて子どもたちを「わっ！」と驚かせたら、ゆっくりと見せてあげてください。いろいろなものがたっぷり陳列してある店内の豊かさをじっくりと味わってもらうために、本文はありません。子どもたちが「○○がある！」「これおいしそう！」というような会話をしながら、買い物をするときのわくわくした気持ちを高めてもらうことを意図しています。

絵本解説・各ページのポイント

＜P8～9＞　青果売場

●地産池消、さまざまな産地

こうたは保育園で「三方原のじゃがいも」について教えてもらったことがあるという前提で、「しってるよ！」と得意気に言います。読者の子どもたちの中にも食育などで教わっている子がいて、「わたしもしってる！」という声が上がるかもしれません。

本文では「篠原のたまねぎ」も買う設定にしており、地元にいろいろな特産品があることや、新鮮でおいしいという地産池消のメリットを伝えています。このCD-Rに浜松特産の農産物についての資料をつけましたので、「浜松にはこんな特産品があるんだよ」というような会話で、地元の生産物への興味も広げることができます。

このページに描かれているそのほかの野菜や果物にも、産地名を書いた値札がつけられており、スーパーには地元産のものもあるし、さまざまな産地のものが集まっているということを伝えています。「いろいろなところでとれたものがあるね」「○○は△△でとれるんだね」と、その多様な産地を話題にしてみてください。

●フェアトレード

フェアトレードマークのついたバナナも売場の棚に描いています。フェアトレードとは、「開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指ざす『貿易のしくみ』（フェアトレード・ラベル・ジャパンHPより）」のことです。このマークに実際のお店で出会うこともあると思います。「このマークは、作っている人を応援していますというしるしなんだよ」というように、その意味を教えてあげるきっかけになります。

＜P10～11＞　精肉売場

●肉の種類と用途

こうたは買い物が楽しくて積極的に動いていますが、肉についての知識がまだないため、ひき肉のパックを手に取ってしまいます。それに対してお母さんが、それはハンバーグを作るときに使うと教え、肉の種類によって用途が違うことを伝えます。売場の棚には、いろいろな肉のパックがぎっしり並んでおり、肉にはさまざまな種類があることがわかります。

●肉の部位

売場には肉の部位を描いた絵が掲げられており、スーパーの店頭でパックに入っている肉が牛や豚や鶏のいろいろな部分であることがわかります。

●地産池消

地元産の肉のPOPが描かれ、肉にも地産池消があることを表しています。

＜P12～13＞　レジ

●マイバッグ

店内ではお母さんがマイバッグを持っていたのですが、レジ係の人の問いかけに対して、こうたが誇らしげに「はい！」と答えます。買い物に行くときは買い物袋などを持参しましょう、ということをここで改めて伝えます。

●店の人とのコミュニケーション

お店の人とのコミュニケーションは、買い物の重要な要素です。個人商店と違ってスーパーではその機会は少ないですが、このようにレジ係の人と会話したり、売場でスタッフの人に何かを尋ねたりすることはあります。お店の人とのコミュニケーションがあると、買い物がもっと楽しくなるということを、この場面では伝えています。

●お金を払う

商品はお金を払ってから自分のものになるという買い物の基本ルールを、ここで示しています。

●手伝い

商品を棚から持ってきたり、かごをレジの台に載せたりして、お手伝いをがんばったこうたは、レジの人にほめられました。そして、誇らしい気持ちになって、袋詰めも手伝います。手伝いの大切さややりがいを、ここでは伝えています。

絵本解説・各ページのポイント

＜P14～15＞　駄菓子屋さんの前

●手伝いと対価

スーパーの帰り道にある駄菓子屋さんは子どもにとって魅力的な場所ですが、毎回寄る場所ではなく、特別なときに寄るお楽しみの場所という位置づけです。この日は、こうたがたくさんお手伝いをしたからということで、寄ってもらえることになりました。さらに、お母さんはこうたにお金の使い方を教えようと考え、100円玉を与えることにしました。

●自分でする初めての買い物

自分でお金を持って、欲しいものを選んで買うという体験に初めて臨む、わくわくした気持ちを、読者の子どもたちも、たくさんの商品が並ぶ駄菓子屋さんの前で、こうたと一緒に味わいます。

＜P16～17＞　駄菓子屋さんの店内

●予算内でのお金の使い方

ほしいものがいっぱいある駄菓子屋さんの中で、読者の子どもたちも、自分だったら何を買うかな？と思いながら、予算を考えて計画的にものを選ぶという、買い物のしかたを学びます。

●人に喜んでもらえるお金の使い方

迷っているこうたに、お母さんが妹のことを思い出させます。こうたは、自分のためだけでなく、妹も喜ぶようなお金の使い方があることに気づきます。自分のほしいものを我慢することを少し残念に思いながらも、同時に妹を思いやったことに誇らしさも感じています。

●お金を払う

スーパーではお母さんが払いましたが、今度はこうたが自分でお金を払います。
「いえやすくんクッキー100円」と書かれた絵を見て、読者も実際に100円で「いえやすくんクッキー」を買うような気持ちを感じてもらいます。

＜P18～19＞　夕食風景

●家事の手伝い

絵では表していませんが、カレーライスをみんなでいっしょに作ったという文で、子どもたちもお父さんも協力して家事をする理想的な家族の姿を伝えています。みーちゃんの「おにいちゃんが　おてつだいしたカレー　おいしいね！」という言葉は、こうたがスーパーで買い物を手伝ったことを言っています。

●家族だんらん

家族そろって、その日の出来事を語り合いながら食事をする楽しさを表しています。

●父にほめられるうれしさ

みーちゃんのことを思って「いえやすくんクッキー」を選んだこうたの行動を、お父さんがほめます。父親にほめられるということは、 子どもにとって誇らしいことです。
こうたは、自分がほしいものを我慢して少し残念だった気持ちがすっかり払拭され、良い買い物をした満足感を感じています。

＜P20＞　睡眠中（夢）

●待ちきれない気持ち

幼児の食生活としては、「いえやすくんクッキー」は翌日のおやつに食べることになりますが、こうたもみーちゃんも読者の子どもたちも、それまで待ちきれないと思われるので、夢の中で食べるシーンを描いています。こうたの初めての買い物が、誰もが満足できる結果となり、充実感を持って1日が終わるという締めくくりになっています。

■浜松の特産品豆知識

○浜松の農産物紹介
http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/nousei/portal/nousanbutsu/nousanbutsu.html

○豊富な特産品浜松市
http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/miryoku/jiman/tokusanhin.html